

## 第9回攻めの農林水産業実行本部 議事要旨

日 時：平成28年11月28日（月曜日）18時17分～18時30分

場 所：農林水産省 第一特別会議室

議 題：「農林水産業・地域の活力創造プラン」の改訂について

出席者：（本省）山本農林水産大臣、磯崎農林水産副大臣、齋藤農林水産副大臣、細田農林水産大臣政務官、矢倉農林水産大臣政務官、奥原事務次官、松島農林水産審議官、荒川官房長、山口総括審議官、水田総括審議官（国際）、塩川危機管理・政策評価審議官、大浦検査・監察部長、佐々木統計部長、今城消費・安全局長、井上食料産業局長、枝元生産局長、大澤経営局長、佐藤農村振興局長、柄澤政策統括官、西郷技術会議事務局長、沖林野庁次長、佐藤水産庁長官、渡邊政策課長  
（地方農政局等）松尾東北農政局長、石田関東農政局長、印藤北陸農政局長、田辺東海農政局長、徳田近畿農政局長、坂井中国四国農政局長、金丸九州農政局長、鶴見北海道農政事務所長、西山北海道開発局次長、遠藤沖縄総合事務局農林水産部長

「農業競争力強化プログラム（案）」について総括審議官から、「輸出インフラ整備プログラム（案）」について食料産業局長から、「農林水産業・地域の活力創造プラン」改訂案」について総括審議官から、それぞれ資料に沿って報告。

（齋藤副大臣）

輸出インフラ整備プログラム（案）について、ハード面での整備やソフト面での日本版SOPEXA（仮称）の整備などは大事だが、一番大事なのは本気で輸出しようとする根性。それがなければ、ハード面やソフト面の整備をしてもだめ。必死でやるという気運をどう醸成するか真剣に考えて欲しい。やっていますとのアリバイづくりではだめ。輸出で頑張った農業者に対する表彰制度がないなら、制度をつくり、大臣名で表彰してはどうか。そういった気運の醸成というものをもっと意識していくことが大事。

（磯崎副大臣）

規制改革会議について、齋藤副大臣を始め、関係者に調整していただき感謝。今まで準備してきたものもこれから取り組んでいくものも含め、膨大な量の作業が必要となる。各局とも制度改正など大変だと思うが、叱咤激励しつつ、慰労しつつ、頑張っていたきたい。

（山本大臣）

本年秋を目途に具体的な内容を詰めることとされた農政改革について、明日29日の「農林水産業・地域の活力創造本部」で正式に決定されることとなった。

農業者の所得向上を図るためには、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力では解決できない構造的な問題を解決しなければならない。

このため、まず、生産資材価格の引下げや、農産物の流通・加工構造の改革、生乳流通改革などの構造改革が必要。次に、農林水産物・食品の1兆円目標の1年前倒しを受け、その実践に必要なハード面とソフト面の輸出インフラの整備プログラムの検討に省を挙げて真正面から取り組まなければならない。

今般、これらの取組について、「農業競争力強化プログラム」、「農林水産物輸出イン

フラ整備プログラム」として結実し、これらを含む「農林水産業・地域の活力創造プラン」の改訂案をとりまとめることができたことは、大変喜ばしく、関係の職員の方々のご尽力に心から敬意を表したい。

今般の農政改革の内容は、これまで当省としての取組が弱かった部分に初めて切り込み、抜本的な見直し方向を取りまとめたものであることから、その実現に当たっては、農林水産省の全職員が気を引き締めて全力で取り組まなければならない。しっかりと対応するよう、よろしく願いしたい。

(以上)